

釧路南ロータリークラブ会報

第 27 回 例 会 報 告 2008.2.1 通算 1238 回

・ 点 鐘 佐野会長

・ ロータリーソング

「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」

ソングリーダー 工藤 ゆかり会員



とのことです。当クラブ理事会としましては、名誉会員として南クラブに籍を置いて頂きたいと決まりましたので、次週になりますが、私と幹事で、佐藤会員を尋ねてきます。

・ 幹 事 報 告 佐藤副幹事より報告



・ お客様と来訪ロータリアンの紹介
サンウェブ釧路営業所 所長 富山真行さん

・ 会 長 挨 拶



病氣療養中の佐藤輝治会員より 1 月 28 日付けで退会届が出ております。「只今病棟にあり治療に努めております、この度一度退会し日常の活動に支障がないとの見解をいただきましたら再度入会をお願い致したく深く思っております」

- * 3 月 1 日(土曜日)に行われます釧路 R C 主催の I M の出欠ですが、2 月 6 日まで返信の FAX をいただく事となっております。まだ返信されてない方が多数おられますのでお早めをお願いいたします。今年度より会費はクラブからの支出としております。
- * 2007~2008 年度の会長賞の申請をガバナー補佐に提出しております。
- * R I 2500 地区 2006~2007 年度の「地区活動報告書」を拝受しております。
- * ㈱クマヒラ様より「拔萃のつづり」(ばっすいのつづり)を寄贈いただき全員に配布しております。
- * 釧路 R C より 2 月のプログラムと会報 23、24、25 号を拝受しております。
- * 釧路北 R C より 2 月のプログラムと 10 月、11 月の月報を拝受しております。
- * 釧路西 R C より 2 月のプログラムと 1 月の会報を拝受しております。

- * 釧路東RCより2月のプログラムを拝受しております。
- * 釧路ベイRCより2月のプログラムと1月の会報を拝受しております。
- * 根室西RCより2月のプログラムと1月の会報、それぞれ拝受しております。
- * ロータリーの友2月号を配布しております。

・委員会報告

出席委員会

本日 27 名中 17 名 メーキャップ 2 名 出席率 70.3%

・本日のプログラム

「新入会員・パスト会長卓話」

担当 出席委員会

●菅井紀之会員



「大好きなディズニーランドの話」

こんにちは。私がディズニーランドの大ファンなので、その話をさせていただきます。私がディズニーランドの虜になったきっかけは今から5年前、ちょうど東京ディズニーランドが開園20周年記念の時でした。それまでは、普通より大きな遊園地程度だろうと思っていて全く興味がなく、行きたいとも思っていみせんでしたが、たまたま商店街の抽選でディズニーランドペア旅行が当たり、せっかく当たったのだから行ってみようかと軽い気持ちで行きました。ところが、ディズニーランドに入った瞬間、また、パレードを観た瞬間、こんなに素晴らしい

所が日本にあったのかという驚きとなんとも言いようがない感動に包まれました。横にいた妻を見ると涙を流して観ていました。友人にその話をしたらディズニーランドに行ったら涙を流すなんてと笑われました。が、それだけ私達にとっては非常に素晴らしく感動するものでした。それから行くのが楽しみで、できる限り毎年行くようにしています。以前会社の女性社員がディズニーファンで世界のディズニーランドに全て行っていたのですが、ディズニーの世界の雰囲気がとても好きで、中のベンチに座っているだけで癒されると話していました。私はベンチに座っているだけで良いなんて何を馬鹿な事を言っているんだと思っていましたが、1日目にして同じ気持ちになってしまいました。また、施設、ショーやパレードの素晴らしさは勿論ですが、私はそこで働いているスタッフの素晴らしさにも感動しました。アルバイトも含め全ての従業員が同じ思いで一丸となり訪れるお客様を心からもてなし、お客様の期待を決して裏切らない接客で対応してくれます。その素晴らしさは、様々な企業がディズニー方式の社員教育を取り入れている事で納得できます。私は、最初アメリカのディズニー社が東京ディズニーランドも運営しているものだと思っていましたが、日本の企業が運営している事を知り、ますます興味がわきました。ちょうどその時、一冊の本が発売されました。当時の加賀美俊夫社長という方が始めて東京ディズニーランドがどのようにして誕生したのかを書いた本でした。運営している会社は京成電鉄の子会社でオリエンタルランドという会社でした。事の始まりは1958年、今から50年前に京成電鉄の川崎千春社長という方が仕事でアメリカに行かれた時に開園3年目のディズニーランドに出会いその素晴らしさ、スケールの大きさに感激し、「こんな世界を日本の子供たちにも見せてやりたい。」と思ったのが出発点だそうです。それからディズニー社との誘致交

渉、契約交渉に 10 数年、漁業補償、土地の払い下げ等、様々な難題があったそうです。中でも一番の難題は資金調達で、その頃日本のレジャーランド業界はオープンして 1,2 回は来てくれるが、その後衰退していく所が多く、周りからは「夢物語」とか「どうせすぐ潰れる」と揶揄されたそうです。その頃親会社の経営状況悪化も重なり銀行に交渉に行っても全く相手にしてくれなかったそうです。

しかし、当時の千葉県知事、副知事が銀行交渉に同行し、「東京ディズニーランド実現のために県が全責任を持ち、金融機関にはご迷惑をかけません」と言ってくださり銀行も全面協力を約束してくれたそうです。参考までに当初総事業費は 1000 億円を予定していましたが最終的には 1800 億円を超えたそうです。いくら金がかかってもいいから本物を創る。創る以上はロサンゼルスやフロリダに勝るものでなければならぬという想いだったそうです。目先の工事費を惜しんで貧弱なものを創ったとしたらゲストが夢の世界に飛んでいくことができない。

これこそがコンテンツビジネス、テーマパークビジネスに必要な経営者の決断であると書かれています。オープンしてからの 18 年間で行った追加投資は 1800 億円だそうです。まだまだ本には様々な事が書かれています。時間の都合がありますのでここまでにさせていただきますが、私がまだ生まれていない時代、まだ貧しかった日本でこのような夢を描ける人はそういないと思います。一人の社長の感動から夢物語が始まり、その社長の情熱と様々な人の協力により、夢を実現しました。そういう事を思いながら改めてディズニーランドを観るとまた違った感動があり、私もいろいろ勉強になりました。

「ディズニーランドは決して完成しない。」とディズニーの創始者であるウォルトディズニーは言っていました。その通り今でもいろいろな事に挑戦し発展し続けている事がまた魅力の一つです。夢と魔法の王国、ディズニーの魔法は決して解けない。と言われるのですが私はもうディズニーの魔法にかかってしまいましたので、

決して解けることはないと思います。
ご清聴ありがとうございました。

●パスト会長卓話

小野一明会員



「米山記念奨学会について」

- ・ 米山記念奨学会とは
- ・ 寄付金の種類
- ・ 寄付金の使途
- ・ 米山記念奨学会のあゆみ
- ・ 財政の推移



・ 次回のプログラム

2月8日（金）

「クラブフォーラム」夜間例会

会場 釧路全日空ホテル

担当：四大奉仕委員会

・ 点

鐘

佐野会長

今週の会報担当：原田真則会員